

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

**\* 1966年一般公開の写真（東京天文台100周年記念誌資料1-19）**

東京天文台100周年記念誌資料の整理をやっている。今回はアーカイブ室新聞第346号（2010年6月9日）の東京天文台100周年記念誌作成時の資料—その1—の

19) 写真ネガ 天文台記念式（1966年10月29日：撮影者：香西）白黒36枚撮りと書かれた写真36枚である。

ネガが当時、筆者たちがよく使っていたネガカバー（写真1）に入っていた。



写真1

ネガカバーに書いてあるが、この写真は1966年10月29日に撮影されたようだ。10月29日は1953年10月29日に東京天文台75周年記念式典を行って以来、東京天文台記念日となっており、その日に永年勤続者表彰が行われていた。その当日に一般公開が行われたというのは、たまたまその日が上弦の月に近い土曜日であったのであろうか？今では簡単に調べることが可能なので調べてみると、確かに土曜日であった。1966年といえば、筆者は三鷹に移動になった年なので、初めての東京天文台の一般公開であった。



写真1



写真2

写真1、2は、当時の一般公開の天文台玄関辺りの光景である。受付のテントが張られ、見学者を迎えるのは今と同じであるが、東京天文台の一般公開には三鷹駅から臨時バスが運行され、一般公開終了時にも三鷹行きのバスが構内に入っていた。写真3～4は65cm屈折望遠鏡ドームに向かう見学者である。当時はドーム前の道路が舗装されていない様子が分かる。当時、65cm屈折望遠鏡は一般公開の目玉で、この望遠鏡の天体観望は長蛇の列を

作ったものである。写真3～6は行列が増えていく様子であり、写真7、8は昼間の65 cm屈折望遠鏡の観測床で望遠鏡の説明を聞く見学者の様子である。



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8

写真9～12は、夜間の天体の観望の様子である。何千人も見学者に天体を見せるには、天体観望の対象は明るい月にせざるをえず、ほかにも20 cm屈折望遠鏡、30 cm反射望遠鏡でも月を見せたが、どの望遠鏡にも長蛇の列ができ、公開時間が終わっても並んだ見学者が

見終わるまではサービスに努めた。



写真 9



写真 10



写真 11



写真 12

写真 13～16 は、ロビーの展示を見る見学者である。展示は主にロビーだけで行っていたように思う。1966 年には、後に堂平観測所に移設されたベーカー・ナン・シュミット人工衛星追跡カメラが三鷹にあり、見学者に見せられていた。写真 17 がその様子である。



写真 13



写真 14



写真 15



写真 16

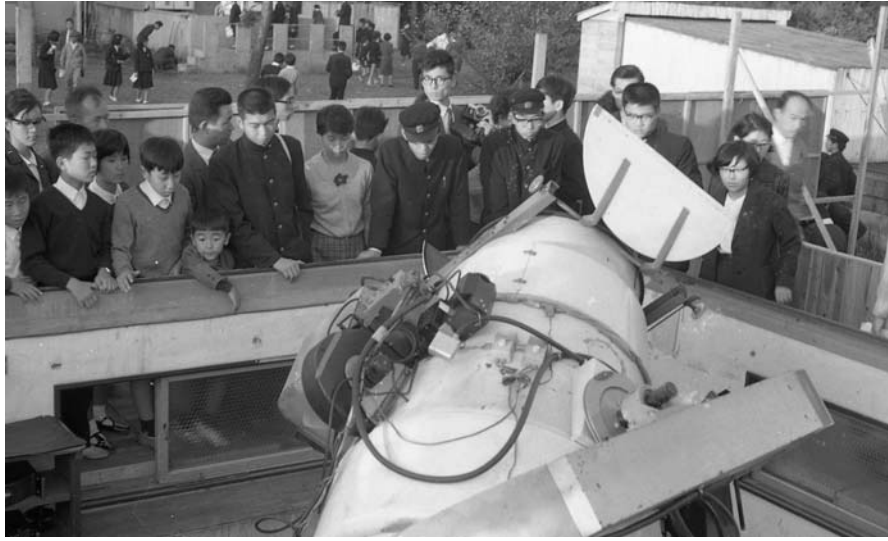


写真 17

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)